

事業番号	369
------	-----

平成24年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	児の森施設管理事業						担当部	教育委員会事務局		
	会計区分	一般会計			事業類型	法定受託系	担当課	生涯学習課			
	事業期間	平成18年度			～	平成30年度以降		担当係	青少年育成係		
	総合計画 分野別計画	主目的	4 教育文化		17 生涯学習		3 健全な青少年を地域で育てる				
		副目的									
	予算区分	款	10	項	5	目	4	大	6	中	1
	根拠法令・個別計画	生涯学習のまちづくり基本構想・基本計画									
	実施・運営方法 ※費用合計に占める経費の内訳(割合)	直接実施・運営	100 %		委託	0 %		助成	0 %		
	目的 (対象をどの様な状態にするのか)	エコトイル・園路の管理、整備を行い、市民が利用しやすい環境を維持する。									
	内容 (手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・自然林内のため、環境に対応したエコトイルが設置してあり、一定期間ごとの点検整備をした。 ・東部地区の山中にあるため、日常管理は地元区へ委託した。(週2日以上)の清掃管理) ・児の森内では、ボランティアの市民活動グループが月2回程度活動しており、巡視及び風倒木の整理や下草刈りなどの保全活動は月1回程度実施した。 ・月に一回程度、児の森や大山地区周辺の土日の行事の折には、児の森を巡回し管理に務めた。また、異常の連絡が大山地区やボランティア等から入れば、すぐに現場へ出向き対応した。 <p>【直接経費の内訳】 修繕料等 1,359,325円、管理委託料等 485,048円</p> <p>◎24年度実施内容 23年度と同様に実施する。</p>									
受益者負担	【その他】大山区が所有する受水槽ポンプの設備を市が利用しているため、発生する電気・水道料金を支払っているが、稚児神社の祭事が行われる2、4月分は、大山区に支払ってもらっている。										

		単位	H21決算額	H22決算額	H23決算額	H24予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	1,311	1,569	1,845	2,655	
		正職員	従事者数	人	0.15	0.20	0.20	0.20
			人件費	千円	797	1,063	1,063	1,063
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
		費用合計	千円	2,108	2,632	2,908	3,718	
	対前年比	%			124.8	110.4	127.8	
財源	一般財源	千円	2,089	2,613	2,889	3,699		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	19	19	19	19		

業	活動指標名	単位		H21	H22	H23	H24
	エコトイレ清掃回数	回	目標		102	102	102
実績				103	105	103	
活動グループ整備活動	回	目標		12	12	12	12
		実績		21	22	13	
		目標					
		実績					
績	成果指標名	単位		H21	H22	H23	H24
	市主催講座参加者数	人	目標		306	240	240
実績				339	232	254	
活動グループ自主講座参加者数	人	目標		120	120	120	120
		実績		197	283	123	

事業の自己評価	平成23年度の実施結果	事業の達成状況	定例的なトイレの衛生管理や、森の保全活動については、順調に目標を達成した。定員に満たない参加者の講座もあったが、こまなびフェスティバルや市民まつりなどには、多くの来場者が参加し好評を博した。
		事業実施における課題等	講座の内容がマンネリ化しているものもあり、参加者数が伸び悩んでいるものもある。里山を利用して活動したい団体からの要望もあるため、使用の手続き、方法を検討する必要がある。
		事業を縮小・廃止したときの影響	兒の森は、愛知県との利活用協定を結び、学習活動の場を提供している。事業の廃止等は、学習活動の里山の保全活動にも影響を及ぼすことが想定される。
今後の事業の方向性	方向性の判定	現状維持	
	判定理由	里山での体験活動の機会の提供は、子どもにとって有意義な経験であるだけでなく、保全活動を行う大人にとっても生涯学習のフィールドとして有効であることから、現状維持とした。	
	改善案等	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに体験活動を指導するための指導者養成として、リーダー講座を開催していたが、年々参加者が減少していたため、親子が自然に触れ合い体験する講座に内容を変更し実施する。 ・里山を活用したい団体からの要望に対応するため、利用申請の方法について検討する。 	

二次評価	方向性の判定	判定理由
	現状維持	一次評価のとおり。